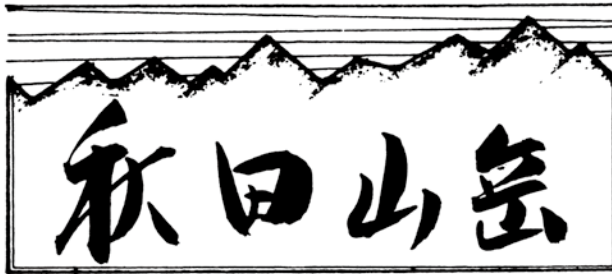


2019



平成 31 年 1 月 発行

No. 110

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋 田 支 部
編集 鈴 木 裕 子

■ ■ ■ ■ ■ 太 平 山 歩 道 整 備 ■ ■ ■ ■ ■

「山の環境整備県民共同事業」に参加
太平山中岳に標柱設置 佐藤 博

九月二十二日(土)に予定されていた山の環境整備県民共同事業は、雨のため延期になり、十月六日(土)に実施された。当日、中央地区山岳協議会会員等の参加で駐車場は混雑すると思いき、早めに金山滝登山口駐車場に到着。高校生も含め二十二名参加。県自然保護課の担当者から挨拶と諸注意の後、長さ一・六m程の標柱を中岳山頂まで運び設置する作業が始まる。運びやすいように二本に分割し、設置の段階でボルトで締めて継ぐ仕掛けだ。一本だと腐食や自然災害で折れたり、熊さんが好きな防腐剤を嗅ぎつけ、傷つけられても上部だけ交換すればいいのかもしれない。丸太棒の標柱はころころと安定しないが、どうにか背負子に括りつけ、八時四〇分出発。登山口の橋を渡って次の濡れた丸木橋は横ぶれし、ちよっぴり足がすくむ。急坂を登り切り、緩斜面の登山道に入ると徐々に慣れて安定してきた。三吉大神の石碑前で交代する。雑木林に入ると、台風で広葉樹の葉は塩害で茶褐色にくすんでいる。今年の紅葉は期待できないと思う。標柱を何人かで交代して、二手ノ又からの分岐で休憩。ここからまもなくの女人堂前には一般登山者が数名休んでいた。

前岳山頂で一休みし、中岳直下の三角井戸からの急坂も難なく登り切り、先着の方々の笑顔に迎えられて、中岳に十一時四十分頃到着。昼食、休憩の後、設置場所を決め、穴を掘り始めるが、石塊と張り詰めた木の根で、交代で悪戦苦闘しながら穴掘り完了。標柱をボルトで一本につなぎ、にわか仕立師達がワイワイと、もつと東に、右にと指示の音が飛ぶ。傾き加減を繰り返して、真つすぐ天に向かい、倒れないようにと石塊と土を交互に混ぜ、踏み固め完了する。



設置した標柱や奥岳山頂が見えるようにと、枝ならぬ根元まで伐採し、神社の周りも丁寧に整備する。作業後に記念写真を撮り、そして神様に安全登山と標柱が自然災害と熊の被害にあわないようお祈りし、参加した喜びをかみしめて下山した。



新に設置された標柱の前で

二手ノ又から登って
堀井 弘

参加団体
日本山岳会秋田支部 河辺山歩会
矢留山岳会
秋田北高等学校山岳部
秋田支部参加者 鈴木裕子
鎌田倫夫 堀井弘 佐藤博
石川祐子 安藤金栄 歩仁内昌樹



中岳に取り付けられた手作りの標柱



中でなくて、良かったと思っ

八時に登山開始。紅葉にはもう少しの林間を自然観察と登山道の状況を見ながら、ゆつくり登る。足元には僅かだが、ナメコ、サワボタシの山の恵みがあり、いただく。

お天気に恵まれ、女人堂からは秋田市街を、鳥海山を眺望。

前岳山頂で、数年前に設置した手作りのベンチで休憩。来年はペンキ塗りが必要である。

ここから中岳まで尾根筋を巻き、観音像のある岩谷山を過ぎ、清水の湧く三角井戸に出る。下部の方から金山滝コースを登ってきたグループの声がして間もなく合流する。三角井戸からの急斜面にロープが新に取り付けられていて、ここに、「滑る・注意」の手作り標識を目立つように取り付ける。

全員中岳に到着。休憩・昼食後に標柱の設置が行われた。設置した周囲の枝を払うと展望も開けた。

作業終了後の解散式で、私のハイモニカに合わせて「雪山賛歌」と「ふるさと」を全員で合唱。下山開始。

皆さんは金山へと下山、私と鈴木支部長は、歩道整備の刈り払い箇所を確認しながら、二手ノ又駐車場に十六時に着いたら、パラパラと小雨が落ちて来た。作業

太平山前岳歩道刈り払い 鈴木裕子



刈り払われた前岳山頂で昼食

会員外
島山秀雄

安藤金栄
熊谷光子

柴田勸
石川祐子

川口廣志
佐藤博

鎌田倫夫
堀井弘

鈴木裕子
佐々木民秀

参加者

十一月四日(日)、毎年の公益的事業である、太平山前岳歩道の刈り払いを行った。草刈りカマ、剪定バサミが活躍する。刈り払いの箇所を先月の標柱設置の際に決めておいたので、作業は手際よく進んだ。

登山口の標柱が見えるように、足元の安全のために木の根を取り払い、倒木を処理する等の共同作業。

追い越してゆく登山者に「ありがとうございます、ご苦労さんです。」と声をかけると嬉しい。

女人堂の広場もすっかり刈り払われ気持ち良い。作業を終え、前岳山頂で休憩・昼食。お天気に恵まれ紅葉を楽しみながら、山情報を交換。

広く、綺麗になった歩道を自画自賛しながら帰路についた。

秋の里山山行 三森山 熊谷光子

十月二十日(土)、寒い朝だが雨でなくほっとする。集合場所の秋田中央シルバエリアから、参加者十五名が五台の車に分乗して七時過ぎに出発。

「道の駅さんない」で、今野顧問と合流し、総勢十六名で目的地へ向かう。

秋田県と岩手県の県境に跨る「三森山」は、国道一〇七号線を山内の黒沢地区に入り、砂利道だがよく整備された林道を堂の上を経て十k程走り、登山口に着く。支部長から恒例のパナナの差し入れがあり、一同エネルギーを補給して、九時十分出発。

登山道は整備されていて、歩道脇に自生する少し酸っぱい山ブドウを頬張りながらルンルン気分登る。

聞くところによると、山行委員の佐藤さんと川口さんが下見に来たときは、歩道は草に覆われていたため、刈り払いしたんだと驚いていた。

大休止の四阿が登山道の真ん中にある。そこらからつづら折りの急斜面が四〇分以上続いたが、ブナ林には目もくれず、ただひたすら五九七段の木段を一気に登る。

県境上の主稜線に出て平坦な笹の道を進み、早い人は一時間弱で2等三角点のある三森山山頂についていた。

太陽が紅葉を照らし、景色も良く、錦秋湖や街並みは見えたが、残念ながら焼石岳方向はガスで確認できなかった。風が冷たく、防寒具や雨具で体を温めながら、頂上で早めの昼食とし、



進藤繁雄

時田慎一
吉川昭子

永田一秀
鈴木茂夫

柳田ルイ子
柳田ルイ子

安藤金栄
熊谷光子

石川祐子
浅野茂春

佐藤博
鈴木裕子

今野昌雄
福田光子

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

柳田勇悦
柳田勇悦

記念撮影をパチリ。

十一時四十分下山開始。木段に注意しながら慌てず、一步一歩下る。

道の駅で小休憩してから、県指定の天然杉「筏の大杉」へ向かう。私は初めてだった。行く途中に、ひとときわ自立二本の杉が見えたが、着いたら一本の杉で、高さ四三m、幹周り十二m、樹齢千年以上の秋田県一の高さの杉で、地上五・五mのところまで左右に分岐しているため、遠くからは二本に見えたのだ。隣の比叡山神社に参拝したのちに解散となった。楽しい一日だった。

年次晩餐会報告 鈴木裕子

十二月一日(土)新宿区京王プラザホテルで開催。

午前十時三十分から晩餐会に先立ち「扇の間」で支部連絡会議開催。

二〇一九年度の特別事業補助金、登山教室の実施要項の説明の後、各支部から本会への質問、要望等について。準会員が三年目を迎えた時の本会の対応。準会員廃止も含めた検討をすべき。入会金は他組織と比較して高額である。会費の値下げも含めた見直しを。

「山岳」等の印刷物は必要者に有料配布して経費の削減をする。各委員会の活動等を見直し、趣味の会として財源に見合った活動をすべきではないか。

また、財源確保のための会員増は、カンフル剤にはなるかもしれないが、体質改善にはならない。講習会等は首都圏に限っており、不公平感がある。会員の高齢化等による支部活動の低下等、活発な意見交換が行われた。

昼食後、皇太子殿下をお迎えして講演会開催。

「山と旅」夢枕獭氏 子供の頃から好きだった、自然と三蔵法師に興味を持ち、天山ムザルト峠に東海支部の別行動隊として参加した話はとても面白かった。

「チョゴリザ初登頂六〇周年記念」は、秋田支部が設立した頃の本会の活動で、当時の未踏峰に対する意欲を感じた講演であった。

第二十回秩父宮記念山岳賞受賞者の小崎尚会員の講演は「日本の山岳景観」であった。

海外登山隊報告は、「セロ・キシントワール北東壁新ルート」登頂と、青年部の「チャムラン」の惜しくも撤退した報告であった。

皇太子殿下は講演会のみのご出席であった。

晩餐会は例年の通り、会長の挨拶、永年会員章の授与、新入会員の紹介、鏡割と進み、各テーブルでは和やかに他支部会員との交流を深めていた。

私の席では会員の祖父に付き添って参加した孫娘が、祖父をお世話している様子が微笑ましかった。

支部交流の時間になるとそれぞれ旧知の友を探して賑やか、賑やか、楽しい一時を過ごした。

出席者 佐々木民秀 福田光子
佐藤和志 今野昌雄 鈴木裕子
佐藤博 石川祐子



懇親山行報告 佐々木民秀

恒例の晩餐会山行は、山中湖の北側に連なる石割山(二四一三m)であった

が、石割神社側を往復すること、我々は隣接する大平山(二二九六m)にも登りたく、別行動とした。

二日(日)、早朝、新宿から電車とタクシーを乗り継いで、石割神社の登山口へ。天にも昇るような四〇〇段の階段を上って奇岩の巨石を祀る山名の由来ともなった石割神社へ至る。

巨石の狭い割れ目を廻って幸運を祈り、家族連れや若い登山者で賑わう広い三等三角点の山頂に着くも雲一面で富士山は望めず残念。



休憩中、声をかけてきた人がいた。以前に集会委員を務めた神山氏で二十曲峠から来たという。共に本隊を待つことにしたが、登ってくる人の情報によるとまだまだのような。登山者も多く、団体も登って来たので神山氏と別れ、大平山に向かう。

坦々とした縦走路を、別荘地を眺めながら平尾山を経て電波塔の建つ二等三角点の大平山へ。昼食後、この先の長池山を経て大平山登山口に下山。各山頂へ木段の登下降のある縦走路だった。(行動時間五時間)

三日(月) 早朝、高曇りであった

が、河口湖に映る逆さ富士に感動し、タクシーで天下茶屋の御坂登山口へ。ここから急坂を登りて主稜線に出、この先、五十三年ぶりの御坂山(一五九六m)を経て鎌倉往還の要塞・御坂峠(朽ち果てた御坂茶屋有り)へ。

この先も木陰を透かして富士山を眺めながらやや広い黒岳(七九三m)の山頂に至る。1等三角点のある山頂には標柱や朽ち果てた小屋などがあり、南へ二〇〇m先には、富士山と川口湖の雄大な景観が望める展望台・露岩があった。

景観を充分に楽しみ、この先連続する急坂を下り広瀬への分岐に着く。途中、休憩中の二人の男性がおり、ここから下山するという。今日唯一に出会った登山者だった。

この先、板取沢を下って三ツ峠入口バス停に下山したが、(行動時間六時間)一部に不明確な箇所もあり、このコースはパンフレットには記載されていない。迎えのタクシーで河口湖駅まで。電車を乗り継ぎ夜遅く帰秋した。

※石割山の登山者は約一二〇名。ツアー二団体は五〇名程。(女性八〇%以上で、四〇代〜五〇代が殆ど、七〇歳以上は数名、無所属の若い登山者が特に多い。

※長池山付近や板取沢では、松などの樹林に動物からの被害を防ぐ「クマ剥ぎ」(フラス

チックの巻紙)が巻かれていたが初めて見た。



黒岳山頂で

参加者 佐々木民秀 今野昌雄
鈴木裕子

支部合同会議

九月二十九日(土)～三十日(日)
四ツ谷主婦会館プラザエフで午後一時開催。

司会は永田常務理事。小林会長の挨拶の中で、二十九年度は、永年会員にお願いした寄付金等により、僅かだが黒字決算となった。会員の増と安全登山、公益法人として何をしなければならぬのかを意識したいとのこと。

続いて会務報告、百二十年の記念事業のアンケートの結果や、支部助成事業の経過報告、会計報告と寄付金の取扱い等についての説明。

齋広島支部長から、広島支部は幌尻岳事故から本年三月まで全ての行事を停止。四月から再開したと報告。

入会者の増強に向けては、会員の減少、高齢化問題も含め、現在の在籍会員の年齢構成による各支部の平均年齢は、全国平均六八・一九才、最高が七四・四八才、最若が六三・一一才、秋田支部は七三・〇六才であった。

登山計画書の提出の状況について、山研に宿泊された会員の遭難事故を例に(登山届けが無く、緊急連絡先が不明)、緊急時の初期の対応のためにも登山届の提出は必要。本会で受着けた登山届は、事故が発生した時にのみ必要とするもので、三ヶ月後には廃棄している」と説明があった。

各支部においては、「遭難救助・捜索対応組織」の設置と準備を提案された。また、異常気象により、山が壊れている。充分に注意を、の発言もあった。

支部登山教室については、東海、東京多摩、北海道の各支部の事例の説明。

報告。行政との関わり、生涯学習の一環としての初級登山教室等もあった。また、会員の増について若手支部の例が参考として報告された。(会報山第八八二号参照)

会議途中に台風の影響で公共交通機関の運行停止情報が入り、会議は急ぎ足で進められ、退場三十日は、遠方からの出席者は途中退場する方々もおられ、今年の異常気象がここにも表れていた。他支部の活躍は、年齢構成もさることながら、都市部と地方という地域差もあり、秋田支部は、支部で出来ることで、日本山岳会に貢献したいと思う。

出席者 鈴木裕子支部長
鎌田倫夫事務局長
(報告 鈴木裕子)

計報

寺田新一氏

No.二二八二天

平成三十年十一月七日逝去
(享年七十七才)

謹んでお悔やみ申し上げます
本会と秋田支部から弔電お届け致しました
これまでの支部運営のご協力に深く感謝し、心から冥福をお祈りいたします。
支部有志でお花をお届けしました。



宮城支部設立六十周年祝賀会

十一月十七日(土)、仙台市太白区茂庭荘で開催。

午後二時から記念講演会が始まり、「寒さと人体」山での遭難を避けるために」と題して南極越冬隊員を経験し、認定国際医学士の大江洋文氏のお話があった。

「登山活動の安全管理の基礎」山岳会の指導者として」と題して、栃木支部長渡邊雄二氏が、登山人口の増加は見られるが、リーダー不足、連れられられ、アルピニズムの衰退を感じる等を話された。

午後六時からの祝賀会(参加者三十八名)では、富塚宮城支部長から支部のこれまでの活動等のお話をされ、山中茂樹本会副会長のお祝いの言葉、柴崎元宮城支部長の乾杯で祝宴が始まった。参加した東北・北海道地区の各支部からお祝いの言葉の後、宮城支部会員による弦楽合奏があり、宴は和やかに華やかだった。

最後に、出席者全員による「花は咲く」と「ふるさと」の合唱で閉会した。
出席者 鈴木裕子

矢島山岳会創立六十周年

記念祝賀会

十一月二十三日(金)午後四時から、矢島コミュニティセンター「日新館」で開催。秋田支部から祝電をお届けしました。

出席者
今野昌雄顧問、佐藤和志副支部長

第三十三回全国支部懇談会

(茨城支部)

平成二十九年十月十三日～十四日
茨城県つくば市

「つくばグラウンドホテル」で開催。

十三日 講演会・懇親会

全国各支部から一三七名出席。

1. 古代の山信仰

2. 我が国の火山の現況・富士山も噴火するの

3. 百年目の剣岳三角点設置

4. 懇親会

十四日 懇親山行 筑波山

参加者 今野昌雄

会報に掲載の遅れましたことをお詫びします。

会務報告

◎事務局会議

十二月十七日(月)午後一時から支部長宅で開催。

・諸報告。事務の進捗状況。

・役員会で審議する三十年度決算、三十一年度事業計画

・六十周年記念事業について

・六十周年記念誌について

・六十周年記念品について

手拭とし、長岩名誉顧問からの贈呈とする。

・本会に提出する三十一年度の事業計画、予算案について。

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫
石川祐子